



# 日本植物分類学会 ニュースレター

No. 31

Nov. 2008

## 目 次

会長および評議員選挙の結果.....	2
評議員追加選出結果について.....	2
次期の庶務幹事, 会計幹事, ニュースレター幹事.....	3
諸報告.....	3
日本植物分類学会 2008 年度第 2 回評議員会議事抄録.....	3
日・韓・中合同シンポジウム開催報告.....	5
『国際シンポジウム 東アジアの植物多様性と保全』の参加報告.....	5
国際シンポジウム東アジアの植物多様性と保全に参加して.....	6
2008 年度野外研修会実施報告.....	6
楽しかった野外研修会.....	8
庶務報告 (2008 年 8 月～2008 年 10 月).....	9
お知らせ.....	9
日本植物分類学会第 8 回大会および 2009 年度総会のご案内.....	9
2008 年度日本植物分類学会講演会のご案内.....	12
日本分類学会連合の企画による公開シンポジウムのご案内.....	14
学会メーリングリストへの登録について.....	14
会費納入のお願い.....	15
書評依頼図書.....	15
寄稿.....	15
国際栽培植物学会のニュースレター第 1 号について.....	15
いきもの便り.....	17
ヒョウタンゴケから知を学ぶ.....	17
ネジバナ.....	18
日本植物分類学会第 8 回大会「発表・参加申込書」.....	19
会員消息.....	20

## 会長および評議員選挙の結果

選挙管理委員長 西田 佐知子

日本植物分類学会ニュースレター No. 30 で公示した日本植物分類学会会長および評議員選挙の開票結果についてお知らせします。

開票は 2008 年 10 月 10 日 (金), 名古屋市の名古屋大学博物館 3 階館長室において, 午前 11 時より本学会会員の吉田國二氏, 藤井伸二氏の立会いのもとで行われました。

投票数が前回選挙より 20 票近く減り, 周知が至らなかったのではないかと管理委員長として反省しています。一方, 「入会して間もないため…参加は見送ります…お許し下さい」とわざわざお詫びを送って下さる方など, 真摯に次期学会について考えて下さる方のお気持ちにも触れることができ励みになりました。なお, 票に名前の挙がった方は会長・評議員それぞれ 30 名・160 名を越え, 票が割れる結果となりました。2 年後の選挙を考える材料として, 低投票率と票の分散をここに記しておきます。

### 【会長】

当選	戸部 博	13
次点	西田 治文	6
	矢原 徹一	6

(有効投票数 76 票)

### 【評議員】

当選	永益 英敏	23
	角野 康郎	20
	黒沢 高秀	16
	田村 実	15
	門田 裕一	14
	遊川 知久	13
	五百川 裕	13
	瀬戸口 浩彰	12
次点	高橋 英樹	12
	西田 治文	12
	邑田 仁	12

(有効投票数 79 票)

なお評議員選挙では, 瀬戸口浩彰氏, 高橋英樹氏, 西田治文氏, 邑田仁氏の 4 氏が同票数を得ましたが, 「役員等の選出についての細則」第 4 条の規定により抽選を行った結果, 瀬戸口浩彰氏が評議員に決まりました。

## 評議員追加選出結果について

次期評議員 永益 英敏

選挙管理委員長の報告にありますように, 次期評議員として 8 名 (五百川 裕, 角野 康郎, 門田 裕一, 黒沢 高秀, 瀬戸口 浩彰, 田村 実, 永益 英敏, 遊川 知久) が選挙により選出されました。「役員等の選出についての細則」第 4 条の規定に基づき, この 8 名の合議により次の 5 名の方々を次期評議員として追加選出しましたので報告いたします。

高橋 英樹 (北海道大), 西田 治文 (中央大), 野崎 久義 (東京大), 藤井 紀行 (熊本大), 邑田 仁 (東京大)

## 次期の庶務幹事, 会計幹事, ニュースレター担当幹事

庶務幹事 五百川 裕

次期の学会事務局は、庶務幹事を京都大学の東さんが、会計幹事を国立科学博物館の堤さんが、そして、ニュースレター担当幹事は引き続き北海道大学植物園の東さんがお引き受け下さることになりました。これに伴い、2009年1月1日より学会事務局の連絡先、会計連絡先が下記のように変更になります。お間違えのないよう、ご注意ください。

### 事務局・庶務幹事（会務全般）

東 浩司（あずま ひろし）

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院理学研究科生物科学専攻植物学系植物系統分類学学科

電話&ファックス：075-753-4125

電子メール：azuma@sys.bot.kyoto-u.ac.jp

### 会計幹事（入会申し込み、住所変更、退会届、会費納入、購読申し込みなど）

堤 千絵（つつみ ちえ）

〒305-0005 つくば市天久保 4-1-1 国立科学博物館 植物研究部

電話：029-853-8428；ファックス：029-853-8998

電子メール：tsutsumi@kahaku.go.jp

### ニュースレター担当幹事（ニュースレター原稿送付先）

東 隆行（あずま たかゆき）

〒060-0003 北海道札幌市中央区北 3 条西 8

北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター植物園

電話：011-221-0066；ファックス：011-221-0664

電子メール：azuma@fsc.hokudai.ac.jp

## 諸報告

### 日本植物分類学会 2008 年度第 2 回評議員会議事抄録

庶務幹事 五百川 裕

会場：高知大学朝倉キャンパス共通教育棟 1 号館 138 教室

日時：2008 年 9 月 26 日 12:00～13:30

参加者

評議員：○ 内は被委任者

出席（7名）：梶田 忠，高宮 正之，出口 博則，永益 英敏，野崎 久義，藤井 伸二，綿野 泰行

委任状出席（4名）：黒沢 高秀（藤井伸二氏に委任），田村 実（議長に委任），西田 佐知子（高宮正之氏に委任），村上 哲明（議長に委任）

欠席（1名）：西田 治文

幹事会等：○ 内は役職

出席（9名）：邑田 仁（会長），五百川 裕（庶務），海老原 淳（会計），東 隆行（ニュースレター），坪田 博美（ホームページ），鈴木 武（図書），永益 英敏（英文誌編集），菅原 敬（植物分類学関連学会連絡会・日本分類学会連合），伊藤 元己（植物データベース専門委員会委員長）

欠席（7名）：岡田 博（編集委員長），秋山 忍（和文誌編集），布施 静香（講演会），矢原 徹一（絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会委員長），柏谷 博之（絶滅危惧植物・移入植物専門第二委員会委員長），大橋 広好（国際植物命名規約邦訳委員会委員長），西田 治文（自然史学会連合，学会賞選考委員会委員長）

1. 評議員会開催にあたり，邑田会長から挨拶があった。
2. 五百川庶務幹事により，定足数が確認された。会長・評議員出席 8，委任状出席 4 で本評議員会は成立した。
3. 評議員会議長として藤井伸二氏が選出された。議事録署名人として野崎久義氏と綿野泰行氏が選出された。

#### 4. 報告事項

- 4.1 日・韓・中 3 カ国植物分類学会連合国際シンポジウム 終了報告（参加数，決算等）。
- 4.2 日本植物分類学会講演会 計画報告（2008 年 12 月 13 日，大阪学院大学にて）。
- 4.3 各種委員会に関する報告
  - （1）編集委員会 英文誌『APG』，和文誌『分類』の編集状況。ISI 登録未申請。
  - （2）国際植物命名規約邦訳委員会 販売，収支状況。赤字にはならない見込み。
- 4.4 庶務関係報告 新法人法への対応シンポジウム参加報告等。
- 4.5 会計関係報告 会費滞納者の状況。
- 4.6 ニュースレターに関する報告 編集状況。
- 4.7 ホームページ関連報告 学会メーリングリスト登録状況。
- 4.8 その他 環境省における絶滅のおそれのある野生動植物種の生息域外保全に関する基本方針案に関する意見募集について連絡。

#### 5. 審議事項

- 5.1 国際植物命名規約 2006 日本語版の在庫取り扱いについて  
邑田会長より，2008 年度学会予算に従い販売収入を年度末で学会特別会計に入れるとの説明があり，残りの在庫は学会図書として管理し，学会誌バックナンバーと同様の販売方法としたいとの提案がなされ，質疑の後，承認された。
- 5.2 ニュースレター掲載記事の転載申請の取り扱いについて  
五百川庶務幹事より，ニュースレター掲載記事の転載申請の取り扱いがこれまで定まっていなかったことについて説明があり，学会として著作権を管理せずに個々の著者の了解で対応することが提案されたが，質疑，検討の後，学会として著作権を管理する提案を，2009 年度総会で諮り，承認を得た後，その旨をニュースレターに記載することとなった。以降は学会誌と同様の転載申請の取り扱いとなる。
- 5.3 学会誌 PDF ファイルの取り扱いについて  
五百川庶務幹事より，学会誌掲載論文の著者に対して別刷りと合わせて決定稿 PDF ファイルを提供することについて審議依頼があり，質疑，検討の後，印刷版が正本であることを確認の上，著者に提供することが了承された。
- 5.4 名誉会員の推薦手続きについて  
五百川庶務幹事より，名誉会員推薦対象者数の今後の推移について，現在の長期在籍会員の状況から説明があり，質疑の後，今後も 50 年以上継続在籍会員を対象として名誉会員推薦を行っていくことが了承された。

## 日・韓・中合同シンポジウム開催報告

シンポジウム組織委員長 邑田 仁

2008年8月2日(土)に社団法人日本植物園協会と共催で、北海道大学理学部5号館講堂(札幌市)において国際シンポジウム「東アジアの植物多様性と保全 International Symposium on East Asian Plant Diversity and Conservation」を開催しました。参加者は日本国内から40名、韓国から6名、中国から2名でした。インドからも参加申し込みがありましたが、残念ながら講演取り消しとなってしまいました。午前10時から午後4時30分の間に口頭発表9件、ポスター発表18件が行われました。分子系統から新種発見まで幅広いテーマの発表があり、終了後の懇親会までなごやかに経過しました。日・韓・中三国の研究者交流のためのシンポジウムはこれからも各国持ち回りで開催する予定です。会員の皆様のご協力をお願いいたします。なお、

このシンポジウムには植物科学基金国際学会開催助成をいただきました。組織委員を務めていただいた高橋英樹さん、河原孝行さん、田村実さん、東隆行さん、山下純さん、また、参加、ご協力を頂いた日本植物分類学会、日本植物園協会の方々には厚くお礼申し上げます。



シンポジウム参加者みんなで記念撮影。発表者の1人、朴宰弘先生の提供。(撮影:持田 誠)

## 『国際シンポジウム 東アジアの植物多様性と保全』の参加報告

柿嶋 聡(東京大学)

私は2008年8月2日に北海道大学にて開催された『国際シンポジウム 東アジアの植物多様性と保全』に参加しました。国際シンポジウムに参加するのは初めてでしたが、日本国内での開催ということで知った顔も多く、あまり違和感なく参加することができました。微力ながら少々のお手伝いをさせていただきましたが、準備委員会の皆様のご尽力により、大きなトラブルもなく、無事開催されました。

初めに邑田会長がキレンゲシウマを例に挙げ、本シンポジウムのテーマである東アジアの植物の植物多様性研究や保全において、国境を越えた協力が重要であることを強調されていました。また、東アジアの植物園間での情報交換や協力の促進等のために発足したEABGN (East Asia Botanic Gardens Network)の話は今回初めて知りました。それに関連して、本シンポジウムでは、日本各地の植物園の方々の方々のポスター発表がありました。自分がポスター発表を行っていたため、あまり詳

しく見る時間はなかったのですが、各植物園での取り組みについて知るよい機会となりました。また、今回見た発表の中では、韓国のWoong LeeさんとJae-Hong Pakさんのポスター発表が印象に残っています。鬱陵島に生育する*Rubus takeshimensis*の一部の個体が日本のカジイチゴや朝鮮半島のクマイチゴと全く同じ葉緑体DNAハプロタイプを持つという話に興味を持ち、拙いながらも英語でディスカッションをすることができました。私自身はサトイモ科テンナンショウ属における交雑現象についてのポスター発表を行ない、多くの方に見ていただき、貴重なご意見をいただくことができました。

今回の国際シンポジウムでは、第1回目ということもあってか、海外からの参加者があまり多くありませんでした。次回は来年中国で開かれる予定だそうですので、日本からもぜひ多くの方に参加していただき、中国や韓国の研究者との親交を深めていただければと思います。

## 国際シンポジウム東アジアの植物多様性と保全に参加して

佐藤 広行 (北海道大学)

2008年8月2日、北海道大学において国際シンポジウム東アジアの植物多様性と保全が開催されました。今回私はポスター発表で参加しましたが、「国際」と名のつく場でのポスターを発表は初めてで、最初はためらいましたが、北海道大学で開催されるのだから参加しないともったいないと思い、恥をかき覚悟で参加を決意しました。

参加申込みをしてから開催まで、海外からの参加者からどんな質問が来るのだろうかと不安な日々を過ごしていました。と言いつつも、シンポジウム開催数日前にすっかり不安を忘れ野外調査をしていた時に、マダニに咬まれてしまって皮膚科へ行く羽目になり、残念ながら午前の講演を聞きそびれてしまいました…。会場では各地から集まった参加者のポスターから見せ方のヒントを得たり、何か自分の研究へ応用出来ないか考えたり勉強になることが多く得られました。講演は午後の部しか聴けませんでした。それでもスライ

ドの見せ方や発表の仕方など勉強になりました。長期に渡る深みのある研究ばかりでしたので、「自分には真似すら出来ないな…」と圧倒されるばかりでしたが、不思議と聴いていると楽しくなる講演でした。

講演後の懇親会では学生の参加者が少ないせいもあって韓国の大学院生と同席となり、お互いもじもじしているのが気まず過ぎたので、思い切って話しかけ、辛うじて知っていた韓国人俳優のペ・ヨンジュンの話題を振ってみたいして世間話をして、交流を深めることが出来ました。私は英語が苦手ですので植物の話は余りできませんでしたが、お互い採集した標本の交換をしようと約束を交わし、研究に役立つ懇親会にすることが出来ました。所属大学が会場であったため、僅かながら自分も会場設営をお手伝いしましたが、そこで運営の仕事の大変さを垣間見ることができました。最後になりましたが貴重な交流の場を作って頂いた学会役員、準備委員会の方々お疲れ様でした。心より御礼申し上げます。

## 2008年度野外研修会実施報告

黒沢 高秀 (福島大学)

「初秋の安達太良山と裏磐梯の植物」をテーマにした2008年度野外研修会は、9月5日から7日の3日間に19名の参加者を得て行われました。直前に長雨が続けていたにもかかわらず比較的好天にも恵まれ、東北地方南部の様々な環境に生育する植物を会員の方皆さんにご紹介したいとの意図は、ある程度達せられたように思えました。

第一日目(9月5日)はお昼に福島駅に集合。挨拶もそこそこに、自動車でも羽山脈を越え、裏磐梯へ向かいました。深い霧に包まれた福島盆地側から安達太良山の土湯トンネルに入り、祈るような気持ちで日本海側に出ると、見事に晴天がひろがっていました(今

回の研修中、幾度もこのトンネルを通りましたが、そのたびに天気の違いに驚かされました)。最初の観察は吾妻連峰から裏磐梯へ流れる急流の大倉川沿いで行いました。カワラニガナやカワラハハコといった狭葉を持つ溪流



図1. フォレストパークあだたらでの記念写真(五百川裕氏提供)。

沿い植物が河原や堤防だけでなく、砂利敷きの林道や駐車場にも生育していました。堤防の上にある林道沿いでは、オノエヤナギ、バッコヤナギなどヤナギ属植物や、アキグミなど土壌が貧困でも生える灌木が多く見られました。

再び奥羽山脈を越えて太平洋側へ戻り、17:00よりフォレストパークあだたら（福島県民の森）で、ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団の遠藤史貴氏による「フォレストパークあだたらの植物」、黒沢による「裏磐梯の水生・湿地生植物」の2題の講演を行いました。この講演会は一般公開という形（後援：福島大学共生システム理工学類自然共生・再生プロジェクト）で行わせて頂き、一般からも17名の参加を得て、この地域の植物の由来や性質に関する質問や意見が活発に交わされました。この日はアルカリ性のぬるぬるした独特の温泉を楽しみました。

第二日目（9月6日）の午前中は、遠藤氏の案内で安達太良山東側の中麓に位置しているフォレストパークあだたら内のミズナラ林、アカマツ林やカラマツ植林を観察しました。林内の小川沿いでは枯れて黒くなったバイケイソウが林立していたのが印象的でした。これまでフォレストパーク内で報告されていなかったシャクジョウソウやミヤマツチトリモチ（しかも落ち葉に隠れていた小型の株！）が見つかり、専門家集団の目や嗅覚の鋭さに改めて脱帽しました。この他、ツクバネソウ、オクモミジハグマ、オヤリハグマなどの植物を観察しました。

その後、奥羽山脈を越えて裏磐梯へ向かい、そば処おほほりで猪苗代蕎麦のお昼を食べた後、午後はエゾミソハギが満開の秋元湖岸で水生・湿地生植物の観察を行いました。あいにくの雨模様でしたが、躊躇なさる方は誰もいらっしやらず、速やかに長靴や胴長に履き替え、それぞれ観察が始まりました。ちょうどセキシウモの開花期で、コイル状に伸び



図2. 秋元湖での水生・湿地生植物観察風景（早坂英介氏提供）。

る雌花柄や水面を漂う雄花など精巧な水面媒のしくみについて、あちこちで説明する姿が見られました。水生植物ではこのセキシウモの他、エゾノヒルムシロ、イトイバラモなどの希少種やクロモが豊富に見られました。やがて水生植物を手に取りながらの薄葉満氏による水生植物講座が始まり、秋元湖の水生植物の種類や、見分け方について勉強しました。次いで、藤井伸二氏によるシロネ属講座となり、この場所に生えていたエゾシロネ、ヒメシロネ、コシロネを実際に比較しながら、図鑑に載っていない見分け方などを教わりました。夕方には観察を終え、硫黄温泉の新幕川温泉水戸屋で、ブナ原生林を眺めながらの露天風呂を楽しみました。

第三日目（9月7日）は、朝食後に幕滝遊歩道で観察を行いました。オオハンゴンソウに占領された林縁から、ブナ林や谷筋のサワグルミ林を経てゆく小径沿いには、カメバヒキオコシなどが見られました。ミヤマウド（北限？）などを横目に沢沿いの小道を上ってゆくに従い、谷は狭く深くなってゆき、何本か小橋をわたり岩道を登るとやがて幕滝に行き当たります。崖には一面にダイヤモンドソウとフキユキノシタが着生していましたが、中には両者の中間的な形態のものが見られることを参加者に指摘されて初めて気がつきました。それぞれ帰り道に向かう頃、強い雨が降り出しましたが、幸い観察には支障がなかったようです。福島駅にお昼に到着し、一応の解散

となりました。午後は7名の方がオプションで福島大学共生システム理工学類生物標本室を訪れ、それぞれご専門の分類群の標本の調査や確認をしました。

限られた時間で足早に巡っただけですが、地元の植物に関して、新たな発見がいろいろとありました。これは、野外研修会を開催することによる特典ともいえるかもしれません。また、自分の管理する標本室のまとまった数の標本に、専門家のアノテーションを入れてもらえるのも、訪れる研究者に限られる地方

## 楽しかった野外研修会

早坂 英介 (東北大学)

私は隣の宮城県から参加しました。観察地の一つの裏磐梯には、磐梯山の噴火によってできた大小の湖が密集していますが、宮城県には似たような場所がないので楽しみにしていました。

一日目は5台の車に分乗して福島駅から猪苗代町の大倉川に行きました。5台の車はそれぞれ、運転手が研究している植物にちなんで、マメ号、スマレ号、カヤツリグサ号、トウダイグサ号、スノキ号と名付けられていました。東北地方はずっと雨続きだったのですが、大倉川に着いたときには美しく晴れ渡っていて参加者のテンションも上がりました。熊鈴を鳴らしながら川に沿った林道を歩きました。川原には行きませんでした。林道でカワラハハコやノコンギクなどを見ました。

二日目の午前中は大玉村の「フォレストパークあだたら」で二次林の植物を観察しました。そこでは前日に熊が出たということで、観察範囲が少し縮小されました。「これはツルリンドウではなくて多分テングノコヅチだ」と話しあっていた植物がありましたが、あれはどちらだったのでしょうか、気になります。午後は猪苗代町の秋元湖に行きました。私は黒沢先生からウェーダーと箱めがねを借りて湖に入り、セキショウモの群落を観察しました。私は水草の採集というと、手の届く範囲の個体しか採らなかつたり、打ち上げられているのを拾ったりして済ませてしまうことが多

の標本室にとっては何よりありがたいことでした。短い応募期間にもかかわらず応募してくださった上に、素晴らしい判断力や気配りで、至らない運営・進行を陰に陽に支えてくださった参加者の皆さんに御礼申し上げます。

本研修会参加者(敬称略、五十音順):五百川 裕, 上野 雄規, 薄葉 満, 宇那木 隆, 黒沢 高秀, 須賀 瑛文, 鈴木 まほろ, 中村 建爾, 中村 直樹, 中村 兪雄, 中山(西野) 友子, 橋本 光政, 長谷川 義人, 長谷部 光泰, 早坂 英介, 藤井 伸二, 山住 一郎, 山田 隆彦, 吉田 國二

かったので、ちゃんと水に入らないとだめだと思いました。

三日目は福島市の幕滝遊歩道を歩きました。滝の水でびしょりの岩壁にダイヤモンドソウとフキユキノシタが群生していて見事でした(図)。長谷部先生が「ねえあの辺にあるの中間型じゃない? 雑種かなあ...」と言うので、彼の観察眼に関心しながら見てみましたがよく分かりませんでした。その植物が生えている岩壁と私達が立っていた場所の間には水量のある沢が流れていて、近づけなかったのです。遊歩道の帰りにひどい雨になり、ズボンがすっかり濡れてしまいました。こうなるのならはじめから沢に入ってもっと間近に植物を見れば良かったということで、やはり、ちゃんと水に入らないとだめだと思いました。

今回の野外研修会では、観察地も温泉宿も素晴らしく、遠くから参加された方々も満足されたと思います。準備された先生方、どうもありがとうございました。



図. 幕滝付近の岩場とダイヤモンドソウ、フキユキノシタ。

## 庶務報告 (2008年8月～2008年10月)

庶務幹事 五百川 裕

庶務報告では学会が交わした契約、転載許可、連絡、行った会議などで、ニュースレターの他の記事で紹介されていないものをお知らせしています。

- ・アボック社からのニュースレター掲載記事の転載許可申請に対して、著者自身の著作物における転載であるので、学会の許可は不要である旨の連絡を行った。(8月22日)。
- ・国立国会図書館のデータベース・ナビゲーション・サービスのための調査依頼について回答した。(9月22日)。

## お知らせ

### 日本植物分類学会第8回大会および2009年度総会のご案内

第8回大会準備委員会

日本植物分類学会第8回大会を以下のように開催いたします。

#### [会場]

宮城県民会館 (東京エレクトロンホール宮城) 宮城県仙台市青葉区国分町3丁目3-7  
6階601会議室 (口頭発表・総会・シンポジウム), 5階501展示室 (ポスター発表)  
ホテル仙台プラザ 宮城県仙台市本町2丁目20-1 (懇親会)  
東北大学植物園津田記念館 (植物標本館) 1階ラウンジ (編集委員会, 評議員会)

#### [日程] 2009年3月12日 (木)～3月15日 (日)

3月12日 (木) 午後 編集委員会, 評議員会 (植物園津田記念館)  
3月13日 (金) 午前 口頭発表 (大会発表賞エントリー者),  
午後 口頭発表, ポスターセッション (宮城県民会館)  
3月14日 (土) 午前 口頭発表  
午後 総会, 受賞記念講演 (宮城県民会館),  
夜 懇親会 (ホテル仙台プラザ)  
3月15日 (日) 午前 口頭発表  
午後 公開シンポジウム (宮城県民会館)

#### [お問い合わせ先]: 980-0862 宮城県仙台市青葉区川内 12-2

東北大学植物園 米倉 浩司  
TEL & FAX 022 (795) 6765  
E-mail: jsps8www@biology.tohoku.ac.jp (大会専用)

#### 発表の要領

##### ○口頭発表 (一般講演)

発表時間は、講演12分、質疑応答3分の計15分です。発表は、会場備え付けの設備 (液晶プロジェクターに接続したWindowsXP, MacOS10.3各1台) を使用したMSパワーポイントによる発表に限定させていただきます。持ち込みのコンピューターは特別な理由がない限り使用できませんのでご了承下さい。また、プレゼンテーションのためのファイルはMS Power Point 2003 (Windows) または2004 (Mac) で読み込み可能なものとします。ファイルはUSBフラッシュメモリに保存してご持参下さい。ファイルの受付は会場で行います。ファイル

の受付時間につきましては、プログラムの確定後に各発表者に大会準備委員会よりお知らせいたします。

#### ○ポスター

ポスター発表用のパネルのサイズは、横 85cm x 縦 150cm です。貼付用テープ等は大会準備委員会で準備します。

#### [発表・参加申込方法]

大会には、日本植物分類学会の会員、非会員を問わず参加していただけますが、大会における発表に関しては、発表者のうち講演者（口頭発表およびポスター発表で話をする者）が会員であることを原則としております。非会員の講演者の方は、発表までに日本植物分類学会への入会手続きをしていただきますようお願い申し上げます。

発表・参加申し込みに関しましては、必ず電子メールで申込をしてください。本ニュースレター 19 ページの「発表・参加申込書」に従って必要事項を入力し、タイトルを「学会申込」として第 8 回大会専用アドレス [jps8www@biology.tohoku.ac.jp](mailto:jps8www@biology.tohoku.ac.jp) 宛に添付ファイルで送信してください（添付ファイル名は参加者本人の名前全体をお使いください）。送信してから 3 日間経っても（土日・祝日を除く）大会準備委員会から受信の返事がない場合は、タイトルを「学会申込再送信」とした上、同じメールを送信してください。電子メールを利用できない方は、別紙の「発表・参加申込書」に必要事項を記入の上、大会準備委員会あてに郵送またはファックスしてください。

#### [口頭発表賞またはポスター賞へのエントリー]

大会発表賞（口頭発表賞、ポスター発表賞）にエントリーされる方は、「発表・参加申込書」9. 口頭発表賞・ポスター発表賞へのエントリーの項目で、(1) する、を選択してください。エントリーされた方の大会における実際の発表形式に応じて自動的に、口頭発表賞、ポスター発表賞、それぞれの候補者として割り振られます。なお、大会発表賞へのエントリー資格のある方は、植物分類学会の会員で、パーマネント・ポストに就いていない若手研究者（ただし、年齢制限は特にありません）で、筆頭発表者として実際に口頭、ポスター発表される方本人です。

#### [発表要旨]

発表要旨の原稿は、必ず MS（マイクロソフト）ワードを用いて作成し、MS Word 2003 (Windows) または MS Word 2004 (Mac) で読み込み可能な形式で保存して下さい。左右は 2cm、上下は 3cm の余白を取り、A4 判の用紙 1 枚に 12 ポイント以上の MS 明朝あるいは MS ゴシックのフォントのみを用いて、34 行以内でタイプしてください。発表タイトルの左には発表番号を印刷するための余白（4cm）が必要です。発表タイトル、1 行空白、発表者氏名（かっこ内に所属）、発表者氏名（英語）、1 行空白、要旨本文の順に記入し、実際に発表する演者の右肩に「\*」を入れてください。図や表を入れることは可能ですが、グレースケール原稿は印刷の際につぶれるおそれがありますのでお避け下さるようお願いいたします。パソコンの機種に依存する特殊文字は、フォントの文字化けなどをおこすおそれがあることをご承知下さい。要旨は B5 サイズに縮小して印刷・製本いたします。原稿のファイルは、「発表要旨」とタイトルをつけた電子メールの添付書類（代表申込者の名前全体をファイル名としてください）として [jps8www@biology.tohoku.ac.jp](mailto:jps8www@biology.tohoku.ac.jp) 宛に送信し、また同時にファイルを A4 の用紙に印刷したものを折り曲げずに下記の住所まで郵送して下さい。電子ファイルと印刷物の両者を受理した時

点で、要旨原稿が提出されたものとします。送信してから3日経っても（土日・祝日を除く）大会準備委員会から受信の返事がない場合は、お手数ですがタイトルを「発表要旨再送信」とした上、同じメールを送信してください。

なお、印刷の都合で体裁を変更する場合がありますのでご了承下さい。要旨のFAXによる送付は受け付けません。

#### [申し込みの締め切り]

発表者のみ：

発表申込・大会参加費振込 1月16日（金）必着（電子メールのみ）

発表要旨原稿提出 1月30日（金）必着（電子メールおよび郵便）

その他：

大会申し込み・懇親会申込・参加費振込 2月28日必着

※1月16日以降は料金が高くなります。3月1日以降は振り込まずに当日受付で精算してください。

#### [要旨原稿の送付先]

980-0862 宮城県仙台市青葉区川内12-2 東北大学植物園 米倉 浩司

TEL & FAX 022 (795) 6765 E-mail: jsps8www@biology.tohoku.ac.jp (大会専用)

#### [参加費送金先]

口座名義：日本植物分類学会第8回大会準備委員会

郵便振替口座番号：02280-8-106799

※郵便局備え付けの振替用紙をご使用になり、必ず振り込み金額の内訳（氏名・大会参加費・懇親会費等）を通信欄に記入して下さい。なお、2009年1月5日から、ゆうちょ銀行では他の金融機関との間に振替サービスを開始しますが、上記の口座ではそのサービスは受けられません。お手数ですが振替用紙をご使用下さい。

#### [宿泊施設]

ホテル仙台プラザ（懇親会の会場です）

980-0014 宮城県仙台市本町2丁目20-1

TEL 022 (262) 7111 URL: <http://www.hotelsendaiplaza.co.jp>

会員用の特別宿泊料金は設定されていません

のでご了承下さい。ホテルから会場までは定禅寺通りを西側に歩いて8分程度です。

仙台市内には他にも多数の宿泊施設があります。各自でご予約下さい。



[大会会場(宮城県民会館(東京エレクトロンホール宮城))へのアクセス]

(バス)

仙台駅西口バスプールの2, 3, 10, 13, 14 番乗場から出ている「県庁市役所経由」のバス(2, 3, 10 番乗場から出ているバスのうち、「上杉」、「広瀬通」、「西道路」経由には乗車しないこと)

に乗車し、3バス停先の「県庁市役所前（青葉区役所前）」で下車し、ケヤキ並木の定禅寺通り北側歩道を西に進んで約7分の所にあります。また、バスプールから少し離れた青葉通り東五番丁角の西の29番乗場から「交通局大学病院前」行きのバスに乗り、3バス停先の「定禅寺通市役所前」で下車して定禅寺通りを北側に渡り、西に歩いて2、3分程度で着くこともできます。バス料金は共に100円です。

（仙台市地下鉄）

地下鉄仙台駅から泉中央駅行きの地下鉄に乗り、2駅先の「勾当台公園」駅で下りて「公園2」出口から定禅寺通を西に進んで5分程度の所にあります。

〔自家用車をご利用の方〕

大会会場の地下に有料地下駐車場がありますが、収容台数は12台とあまり大きくありません。駐車料金は100円/20分です。また、周辺にも公営駐車場が多数ありますが、駐車料金は100円/20～30分程度です。いずれにしても廉価な駐車場は付近にはありませんので、公共交通機関のご利用をお勧めします。

より詳しい情報に関しては、URL <http://www.miyagi-hall.jp> をご参照下さい。

〔参加申し込みと発表申し込み〕

大会参加申し込み（割引）と発表申し込み期間は2008年12月1日～2009年1月16日

1月16日までに振込の場合 4000円（一般）2000円（学生）

1月17日以降振込と当日申込の場合 5000円（一般）3000円（学生）

要旨集のみの別売り価格 1000円

〔懇親会〕

1月16日までに振込の場合 7000円（一般）5000円（学生）

1月17日以降振込と当日申込の場合 8000円（一般）6000円（学生）

〔昼食〕

会場は繁華街の一番町商店街と国分町に隣接しており、周辺には多くのレストランがあります。また、会場の宮城県民会館1Fにも中華レストランがあり、食事をとっていただくことが可能です。

〔公開シンポジウム〕

3月15日（日）宮城県民会館

テーマ「東北地方の植物相の成り立ち」

講演者、演題に関しましては目下調整中です。

## 2008年度日本植物分類学会講演会のご案内

講演会担当委員 布施 静香

2008年度の日本植物分類学会講演会を次のとおり開催いたします。なお、会場は大阪学院大学の林一彦先生に、進行は大阪市立大学大学院の田村実先生にお世話いただきます。

【日時】2008年12月13日（土）午前10時～午後4時40分

【講演会場】大阪学院大学 2号館地下1階2号教室（02-B1-02教室）

〒564-8511 大阪府吹田市岸辺南2丁目36番1号（電話：06-6381-8434）

## 【プログラム】

- 10:00-10:05 ご挨拶  
10:05-11:05 福原 達人「Heterodichogamy の自然史」  
11:15-12:15 永益 英敏「インドネシア・スラウェシの旅」  
(12:15-13:20 昼食)  
13:20-14:20 高相 徳志郎「ソテツ精子が泳ぐ液はどこから分泌されるのか—トガサワラの花粉管伸張と関連づけて」  
14:30-15:30 角野 康郎「日本の水草—『日本水草図鑑』以降の新知見と課題」  
15:40-16:40 岡田 博「ヤブカラシを求めてあちらこちら」

## 【その他】

講演会終了後、大阪学院大学構内で懇親会を行います。

## 【会場までのアクセス】

JR 東海道本線岸辺駅、阪急京都線正雀駅から大阪学院大学までともに徒歩 5 分。

[http://www.osaka-gu.ac.jp/campus/cl\\_frame/index.html](http://www.osaka-gu.ac.jp/campus/cl_frame/index.html)

## 【講演要旨（執筆は各演者）】

「Heterodichogamy の自然史」 福原 達人（福岡教育大学教育学部）

雌雄異熟性についての二型性・型内での同調性・型間での相反性、の 3 点で特徴つけられる性型を "heterodichogamy" という。分布やタイプ、他の形質との相関について紹介し、日本の暖温帯に広く分布する 3 樹種の事例を報告する。

「インドネシア・スラウェシの旅」 永益 英敏（京都大学総合博物館）

2008 年 8 月にインドネシア・スラウェシ島、赤道直下のトミニ湾に浮かぶトギアン諸島で離島の人と自然を対象とした学術調査が行われた。ブギス人の伝統的な木造帆船ピニシを用いた調査の様子と現地の植物を紹介する。

「ソテツ精子が泳ぐ液はどこから分泌されるのか—トガサワラの花粉管伸張と関連づけて」

高相 徳志郎（総合地球環境学研究所・研究部）

ソテツ精子は液の中を卵に向けて遊泳するわけであるが、この液がどこから分泌されるかについて定説がない。一方、トガサワラ等針葉樹では、生長を休止していた花粉管が突然伸張を再開して受精に至る。両者の受精直前の関係を雌性配偶体の働きを通して考える。

「日本の水草—『日本水草図鑑』以降の新知見と課題」 角野 康郎（神戸大学理学研究科）

水草の世界では絶滅危惧種の増加と、新たな外来水草の相次ぐ野生化が問題となっている。本講演では、近年明らかになった分類学的知見や未解決の課題を紹介しながら、日本の水草の今に迫る。

「ヤブカラシを求めてあちらこちら」 岡田 博（大阪市立大学理学部附属植物園）

「ヤブカラシに実のつく株とつかない株があるのはなぜ？」と訊かれて、染色体を観察し、その原因が 2 倍体と 3 倍体の違いであることがわかった。ところが、1) 2 倍体で減数分裂が正常に進むのに花粉粘性が 50%ほどの場合があることがわかり、これは何か大事なものが秘められているように思い、研究をつづけることにした。また、2) 3 倍体の起源にも興味があった。1) は花粉形成過程に関連した、複数あると思われる遺伝子間の不適合が原因

ではないかと思われるがまだ証拠が得られない。2) にはいろいろの過程が仮定されるが、いずれにしてもさまざまな近縁の種、いろいろな場所の株で染色体数、遺伝的変異を調べていかなければならない。また、1) についてもとりあえずはさまざまな個体の遺伝的変異を調べる必要がある。というわけで、アジアのいろいろの地域から機会を捉えてヤブカラシとその近縁種を収集している。その途中経過を報告したい。

## 日本分類学会連合の企画による公開シンポジウムのご案内

日本分類学会連合担当委員 菅原 敬

公開シンポジウムを以下のように開催致します。皆様お誘い合わせの上、是非ご来聴下さい。

日時：2009年1月10日（土）13:30～17:30

場所：国立科学博物館新宿分館

講演会名：分類学における DNA 情報の活用

プログラム：

はじめに（趣旨説明：伊藤 元己）

宮 正樹（千葉県立中央博物館）

「ミトコンドリアゲノム全長配列を用いた魚類の大系統解析と分類への応用」

村上 哲明（首都大学東京）

「DNA 塩基配列情報を活用した生物学的種の認識 ～シダとキノコを例にあげて」

吉武 啓（農業環境研究所）

「分類学における DNA バーコードの利用法」

神保 宇嗣（東京大学大学院総合文化研究科）

「分類学における情報基盤システム」

## 学会メーリングリストへの登録について

ホームページ担当幹事 坪田 博美

ニュースレター 29号でご案内しました会員向け公式メーリングリスト ml-JSPS ですが、2008年5月から正式運用しております。会員向けの情報は、ニュースレターやWebサイトの不得意とする速報性の情報の配信を目的としております。この機会に是非登録をお済ませください。なお、第3回大会用のメーリングリストを使用した暫定メーリングリストは2009年3月末で運用を終了する予定です。

現在、暫定メーリングリストで学会メールが届いておられる場合（メール Subject の前に [Plant Systematics] が付いています）にも、新たに公式メーリングリスト ml-JSPS への登録をお願いいたします。暫定メーリングリストからの自動的な移行については、諸種の問題、不都合があるため現時点では行わない予定です。

登録希望の会員は、ml-reg@e-jsps.com まで必要事項を明記の上、ご連絡ください。なお、1週間経過しても登録完了の連絡がない場合は、お手数ですが再度ご連絡ください。

題名 (Subject) 「日本植物分類学会メーリングリスト登録希望」(必ず明記のこと)、氏名、所属、連絡先住所、電話番号、登録メールアドレス (ただし、携帯電話のメールアドレスは登録できません)

なお、登録の際に、メーリングリストのサーバからの送信を拒否するサーバが一部存在するため、設定の確認もよろしくお願いいたします。

## 会費納入のお願い

会計幹事 海老原 淳

本学会の会費は前納制で、前年の12月末日までにお納め頂くことになっております。会員の皆様の会費納入状況はニュースレター本号の送付宛名の右下に「納済年度：〇〇〇〇」として示されております（自動振替をご利用の方は数字の代わりに「自動振替」と記入されています）。例えば、「2007」の方は2008、2009の2カ年分をお納めいただくことになります。この数字が2009未済の方は、2008年12月末日までに同封の郵便振替用紙にて、該当する金額を納入頂きますよう、よろしくお願いいたします。

- 年会費                    一般会員 5,000 円、学生会員（※） 3,000 円、団体会員 8,000 円
- 郵便振替口座        口座番号 00120-9-41247  
                                 加入者名 日本植物分類学会

本学会では自動振替をご利用頂けるようになっております。ご希望の方は、会計幹事までお知らせください。ただし、2009年度分の引き落とし申込み手続きはすでに終了しておりますので、ご利用は2010年度分からになります。ご了承下さい。

その他、会費納入に関してご不明な点がございましたら、会計幹事（連絡先はニュースレター巻末）までお問い合わせください。

※ 2007年度第2回評議員会において、これまで必ずしも明確でなかった「学生会員」の取り扱いが明確にされました。例えば、学振DCの方は基本的に一般会員扱いとなります。会費振替用紙通信欄に指導教員のサインがない場合、学生会員とは認められません。不足分は未納会費として取り扱われますのでご注意ください。自動振替を利用されている学生会員の方は、前年度末（2009年度分については2008年12月末日）までに、指導教員から会計幹事宛に学生会員であることを承認する旨のメールを送信してください。

## 書評依頼図書

庶務幹事 五百川 裕

下記図書の書評依頼が学会にまいりました。書評の執筆を希望される方は学会事務局まで電子メール（jimu@e-jsps.com）、またはハガキ等でご連絡ください。執筆者には当該図書を差し上げます。

1. 多田多恵子著（2008）「種子たちの知恵」159pp. NHK 出版. 1400 円（税別）.

## 寄稿

### 国際栽培植物分類学会のニュースレター第1号について

池谷 祐幸（農研機構果樹研究所）

本ニュースレター No.28 で紹介した国際栽培植物分類学会（IACPT）のニュースレター第1号がこのほど発行されました。Secretary の D. Collins さんより転載許可を受けましたので、この間に進展のあった活動を中心に要約して紹介します。

- Prof. D. Mabberley を新たに評議員を迎える  
IACPT の第 1 回評議会の決議に基づいて IAPT に要請した結果、IAPT 現会長で、また「Plant Book」の著者としても名高い Prof. D. Mabberley を評議員として迎えることになりました。
- 国際栽培植物命名規約 (ICNCP) の第 8 版の進行状況  
昨年 10 月の栽培植物命名法委員会の審議を受けて編集委員会により原稿が準備され、遅くとも来年度初めには国際園芸学会 (ISHS) の Scripta Horticulturae のシリーズとして刊行される予定です。
- 第 2 回大会の計画  
2011 年に予定している第 2 回大会は、Ettekooven 会長と評議員の Dr. Jin Xiaobai (北京植物園) が北京での開催を念頭に協議しています。
- UPOV やその他の機関との協力  
4 月にジュネーブで開催された植物新品種保護国際同盟 (UPOV) の年次会議において Ettekooven 会長が IACPT を紹介し、UPOV 側からは同定の困難な植物が登録申請された際等の協力を期待されたということです。また IACPT 専門委員会では、Index Nominum Genericorum Plantarum ad Usus Hortulanorum (INGPUH) などの、栽培植物の他のオンラインデータベースとの連携を深めていくことが検討されています。
- 学会誌の出版へ向け  
前に紹介したように、英国王立園芸協会 (RHS) が発行している学術誌の *Hanburyana* を IACPT が引き継ぐための詳細について、出版小委員会において検討しています。
- 各国語による植物名データベースの構築  
国際種子検査協会 (ISTA) において進められている、学名、各国語名、地理分布などを相互参照できるデータベースの構築への IACPT の協力について、評議員の Dr. J. Wiersema が ISTA と協議しました。

(以下、池谷からの補足と感想)

ICNCP 第 8 版については、まだ決定稿も完成されていないので内容の詳細は刊行後に紹介したいと思いますが、構成上の重要な変更としては、第 7 版において削除された 7 つの Appendix のうち、「新品種名のクイックガイド」などの 4 つが復活することです。また、分類学会のメーリングリストで「スタンダード標本を保持する標本館」と共に情報提供をお願いします「園芸カタログのコレクションを保有する図書館」などが新規に掲載されます。ちなみにこの 2 つについては残念ながら今のところ情報提供がないため、日本からの掲載はゼロになりそうです。編集委員会ではまだ情報を集めているのでご協力をよろしくお願いします。

さて、IACPT は設立から 1 年が経ちましたが、現在はまだ学会誌がないこともあり、具体的な活動は今ひとつのようですが、上述のように植物産業界の国際組織との連携・協力を模索しているようです。ICNCP への認識を深め実効性を高めるためにも、産業界や愛好者社会の要望に応えるような品種名等のデータベースの構築は重要であるため、このような活動が今後は学会の重要事業になるのかもしれませんが。

また、次回大会の開催地はまだ検討段階の情報ですが、中国に決定した場合は東アジアの近隣国として日本も相応に協力することになると思います。とはいえ学会員は現在世界で僅か 87 名 (日本からは私だけ?) という寂しい状況ですので、学会の今後の進展を見極めた上でも結構ですので、特に野生植物に限らず栽培植物も研究している方々には是非関心を持って頂ければと存じます。

## いきもの便り

### ヒョウタンゴケから知を学ぶ

井藤賀 操 (理化学研究所)

ヒョウタンゴケは、焚き火跡地や森林火災跡地などに群落を形成する灰耐性蘚類である。本種が灰や炭など塩類濃度の非常に高い環境に適応できるという生態的特性は、世界各地のフィールド図鑑やコケ図鑑でもよく述べられている記載事項である。ところで、植物の分類や系統を調べることが好きな研究者において、ごみの分類や系統といった世界に興味はもたれるであろうか。ごみも植物と同じようにたくさんの種類や系統があり、それらは地球の大切な資源である。ごみは分別回収され一連の焼却過程を経て再資源化される。この焼却過程で副生成物として「灰」が生じる。原料となるごみの種類や焼却炉のしくみ、稼動状況によりさまざまな種類や性質の「灰」が生じてくる。私のこれまでの一連の調査結果によれば、ヒョウタンゴケは「飛灰」という種類の灰の可溶性成分を好むということがわかってきた。

コスモポリタンであるヒョウタンゴケの原系体培養細胞は、これまで植物ホルモンの作用や発生過程を観察することに利用されてきた。私のヒョウタンゴケ研究歴もこの秋で6年目に突入し、さまざまな環境ストレスに対する生理障害や化学物質の作用などを観察してきた。もっとも虜にさせられた本種の特長として鉛吸着能力を上げることができる。本種の原系体培養細胞は水環境中の鉛に対して他の水生生物よりも圧倒的に強い耐性があり、かつ鉛を超蓄積する。現在、本種の鉛蓄積機構をいろいろな視点から調べているところである。さらに本種を用いた鉛排水処理装置の開発と鉛以外の重金属や希少金属なども蓄積できる能力をもった有用品種の育種研究についても取り組んでいる。

生態系の中でコケ植物はすべて生産者の地位にあるが、食物連鎖のしくみの被食者となることは非常に稀で、常々、不思議だなあと感じてきた。コケ植物に普遍的な被食防御機

構があるのかどうかは定かではないが、過度な生産量や増殖速度をみせない「持続可能型」の生活史戦略を発達させてきたことは間違いない。どちらかというコケ植物は「ただそこにじっとしていて、しかも体制を小さく制御しながら生活している」といった印象のいきものである。しかしながら、いざヒョウタンゴケの原系体を浮遊培養してみると、増殖速度はクロレラやスピルリナのような藻類なみの速度である。ヒョウタンゴケは「逃亡者」という生活史戦略を獲得した種群の代表種として知られてきた。そういった意味でヒョウタンゴケはコケ植物の中では特殊ないきものなのかもしれない。

進化の過程で陸上化をはたしたコケ植物の中で、ヒョウタンゴケのように「灰」のような過酷な環境にも適応でき、しかも鉛を超蓄積する能力を備えていて、さらに浮遊培養すると増殖速度も速い。もしかしたらコケ植物は、近未来の人口問題を起因とする食料問題や環境問題を解消してくれる夢の植物なのかもしれない。生き急いできた人間が「持続可能な社会」の形成にむけて、コケ植物を利用した技術開発を進めていくことにおいて、ふと、コケ植物が4億年という長い陸上生活に成功・繁栄しつづけてくることができた知恵に脱帽せざるを得ない今日この頃である。

ところで「灰」は私たちの生活圏のどこで再利用されているのであろうか。コンクリー



最終処分場に成立したヒョウタンゴケの群落。  
撮影：井藤賀 操

トの原料に混ぜ込まれたりもするようであるが、もっぱら最終処分場へ埋め立てられるそうである。最終処分場の一生はおおよそ30年程度だそうで、その後、グランドや公園に生まれ変わるのだそうだ。通常、非常に若い最終処分場への立ち入りは規制され、なかなか

かお目にかかれないのであるが、この度、私は研究の一環で足を運ぶ機会を得た。なんと、そこはヒョウタンゴケの大群落が成立しており、春先になると黄色をした胞子体で一面覆いつくされていた。その姿は、まさに「実るほど頭の下がる蘚穂かな」であった。

## ネジバナ

堤 千絵 (国立科学博物館)

これまで着生植物の進化を研究する上で、どんな要因が選択圧となって植物の生育環境の分化がおこっているのか考えてきた。これまでに考えられたいくつかの要因(光、温度、共生菌種)による種子発芽応答を、着生種と近縁な地生種と比較した結果、大小はあるが各要因により両種の発芽率に差があり、着生植物はさまざまな要因による選択圧を受けながら生育していることがわかってきた。

今回は着生植物ではなく、ネジバナの話。ネジバナといえば春。芝地でごく普通に見られるランである。他の植物と比べてよく目立つのは、除草された芝地でも、ネジバナだけは刈られずに残っているからだと思う。実家の庭も、他の草本は全て母にむしられても、ネジバナだけは残され、ピンクの花序をつんと立たせていたものだ。

なぜこの時期にネジバナの話かという、ネジバナには9-10月に花をつける秋咲きのタイプがある。知り合いからの採集依頼で、園内で秋咲きのネジバナ探しをするが、これがなかなか難しい。なぜなら秋咲きネジバナは、春咲きネジバナほど園内では群生せず、しかも目撃情報を頼りに探しても見つからないことが多いからだ。そのため“秋咲きネジバナ探し”がこの時期悩みのタネとなる。とりわけ目撃場所で探してもなかなか見つからない。目撃場所で見つけられないと、私はフィールドワークに向いてないのだろうか…と落ちこむことが多かったそんなあるとき、あったといわれた場所で、ネジバナの花序だけが落ち

ているのをみかけて納得した。探しても見つからないのは、除草で刈られていたからなのだ。それから注意してみると、園内の秋咲きネジバナは、目撃場所の十中八九が刈り払い機にやられている。それさえわかればあとは除草担当のスタッフとの戦い。目撃情報を得たら、すかさず行く。2、3日後に見に行ったら、他の植物とともに刈られたあわれなネジバナの姿になっていたこともある。

そんな話をラン専門のY氏にしたところ、秋咲きネジバナは除草の選択圧が強かかっているから、園内ではなかなか増えないのかもしれないな、とのコメントが。確かに、秋咲きネジバナは春咲きほど一般に知られていないし、花の時期ならまだしも、果期はなおさらそこにあるとわかっていても見つかりにくい。そのため、種子散布までたどりつける個体は稀なのだろう。そんな園整備による選択圧は菌類にもかかっているようで、菌専門のH氏によれば、倒木を撤去する園内はきのこの観察には不向きなのだそうだ。園内でそんな選択圧を受けている生き物は、結構な数いるのではなからうか。



筑波実験植物園内で果実期まで生き残った秋咲きのネジバナ。著者撮影。

## 日本植物分類学会第8回大会「発表・参加申込書」

以下の内容について、必要事項を記入の上、必ず電子メールでご送信下さい。

宛先：日本植物分類学会第8回大会準備委員会

メールアドレス：jps8www@biology.tohoku.ac.jp FAX 022-795-6765

1. 名前（ふりがな、またはローマ字）：
2. 所属：
3. 所属の短縮表記：
4. 連絡先住所：〒
5. TEL：
6. FAX：
7. E-mail アドレス：
8. 発表（該当する番号を記入して下さい）：
  - する：（1）口頭発表 （2）ポスター発表
  - しない：（3）発表しない （4）共同研究者が発表する（発表者氏名            ）
9. 口頭発表賞・ポスター発表賞へのエントリー（パーマネントポストに就いていない人のみ可）：
  - （1）する （2）しない
10. 懇親会（該当する番号を記入して下さい）：
  - （1）参加する （2）参加しない
11. 全発表者氏名・所属（演者の右肩に\*印）：
12. 全発表者氏名（ローマ字）：
13. 現在求職中の表示の希望：
  - （1）希望しない （2）希望する
14. 演題
15. 大会参加費（振込期日に注意すること）：            円
  - 1月16日までに振込の場合            4000円（一般）2000円（学生）
  - 1月17日以降振込と当日申込の場合   5000円（一般）3000円（学生）
16. 懇親会費（振込期日に注意すること）：            円
  - 1月16日までに振込の場合            7000円（一般）5000円（学生）
  - 1月17日以降振込と当日申込の場合   8000円（一般）6000円（学生）
17. 発表要旨集別売（1部1000円）：            円
  - \*大会参加費には発表要旨集1冊の代金が含まれています。
18. 合計金額：            円
19. 振込郵便局名：
20. 振込日：

郵便振替口座名称： 日本植物分類学会第8回大会準備委員会

郵便振替口座番号： 02280-8-106799